

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等				総合
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校の行事（球技大会や体育祭など）や部活動が好きだと感じている生徒の割合は、85%以上である。	・生徒会や各分掌間で情報共有をしながら普段の学校生活をはじめ、学校行事や集会等、生徒の活躍のチャンスができるだけ多く設け、充実した学校生活となるよう支援していく。	A	A	A	・自分の学校の行事や部活動が好きだと感じている生徒の肯定的な評価は88.9%である。次年度も、学校行事や集会等、生徒会や分掌で情報共有しながら生徒の活躍のチャンスができるだけ多く設けよう工夫していきたい。	・地元企業と連携して実務経験ができることは他校との差別化につながっていると思う。	
		② 専門教科の特色を生かした教育活動（課題研究等）に、生徒の85%以上が満足している。	・生徒が学習活動等で活躍できる場を提供することによって、生徒自らが積極的、主体的に専門的な学習に取り組める環境を整える。	A	A	A	・専門教科の特色を生かした教育活動に満足している生徒の肯定的な評価は91.5%である。地域の方々にも積極的に協力していただいた。次年度も課題研究や実習のなかで地域連携をとおして専門教科の特色を生かした教育活動を継続していく。	・商業科と工業科が連携した行事がさらにできると良い。難しいことではあるが、商業科と工業科が連携した授業や課題研究ができると良い。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③ 授業について、生徒の80%以上が「分かる授業」だと感じている。	・授業における協働学習やICTを活用した授業の実施により、自主的な活動などを通じ授業改善を図る。	B	A	A	・専門科目の特色を生かした教育活動への回答が生徒は90%以上という高評価を得ている。今後も、学習指導要領に示す新しい学びのもと、地域の協力も仰ぎながら、協働学習やICTの活用を通じた授業改善をさらに図っていく必要がある。	・授業内容の理解や学力の定着に関する数値の高さから適切な指導であることが伺えます。教職員の評価を引き上げるには「課題」として指摘している通り、生徒の反応をフィードバックすることが大切で、「反応」を上手に把握する方法を共有できるとよいのではないかと。	
		3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	④ 自己の目標に対して、確かな学力を身に付けていると感じている生徒が80%以上である。	・進路実現を達成するために必要とされる目標とともに学習内容を明確にし、支援することにより学習意欲の向上を図る。	B	A	B	・授業内容が理解できていると感じている生徒は85%、目標に向けて学力が身につけていると感じている生徒は82%と肯定的である。しかし、教職員の評価は低く隔たりが大きい。授業の中で目標を明確にし、生徒の反応をフィードバックし、授業改善をしていく必要がある。また、本年度から実施している基礎学力テスト（英数国）から基礎学力の定着が必要である。	・授業内容の理解や学力の定着に関する数値の高さから適切な指導であることが伺えます。教職員の評価を引き上げるには「課題」として指摘している通り、生徒の反応をフィードバックすることが大切で、「反応」を上手に把握する方法を共有できるとよいのではないかと。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑤ 全ての生徒が、学校生活に対して挨拶やマナーを守っていると感じている生徒が85%以上である。	・生徒会役員を中心にマナー・モラルについて考え、行動する機会を設ける。原則的には励まし、認める指導を心掛け、生徒の自己指導能力の育成を図る。	B	A	B	・学校生活に対して、挨拶やマナーを守っていると感じた生徒・保護者が87.6%であった。次年度も学校行事等において、マナー・モラルについて生徒自ら考える場面を設けていく。	・挨拶やマナー、交通ルールを守っている等の割合が高く、充実した生活指導が成果として現れていると考える。	
		⑥ スクールカウンセラー等を活用し、学校不適合への早期対応を図り、安心して学校に登校する生徒が80%以上である。	・スクールカウンセラーの活用を促したり、アンケートを実施することにより、現状を把握し、職員間の共通認識と協力体制のもと、早期対応を図る。	A	-	A	・スクールカウンセラーや特別支援コーディネーター、専門アドバイザーとの協力体制が整い、具体的な支援・指導方法を提示することができている。今後も職員の連携を密にして、組織的に対応していく。	・スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター及び専門アドバイザーの協力体制が整ったことは良いことである。そのような立場の人から生徒への機を得たメッセージが送られると良い。	
		⑦ 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていると感じている生徒が80%以上である。	・職員研修を実施し、全職員のいじめに対する認識を高める。 ・職員間で生徒情報を共有し、職員がいじめの兆候を見逃さず、把握した際は組織的な対応を図る。 ・いじめ防止フォーラムで得た知見を踏まえ、生徒自らがいじめを許さない雰囲気づくりを行う。	A	A	A	・職員間の情報共有を密に行い、問題の早期発見に生かすことができた。生徒全員が安心して学校生活を送れるように、職員の研修も行っていく。 ・いじめ防止フォーラムに参加した生徒から、全校生徒へフォーラムで得た知見を発表し、いじめを許さない雰囲気づくりに貢献することができた。今後も継続していきたい。	・職員間の情報共有を密に行い、問題の早期発見に努めていることや生徒が安心して学校生活を送れるよう教職員研修を行っていることは素晴らしい。 ・高校生の「早寝・早起き・朝ご飯」の指導は大変かと思いますが、引き続き健康面の啓発を行い、意識改善につながる指導をお願いいたします。	
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧ 不規則な生活による遅刻者が、前年比80%以下である。	・生徒に朝学習の意義を深めさせ、5分前登校の一層の推進を図る。 ・遅刻の増加、欠席の兆候が見られた時点で対応を図り、生活リズムの見直しをするよう指導する。	A	B	B	・食事や睡眠時間をしっかりととり、ゆとりをもった登校ができていると回答した生徒・保護者が、76.4%であった。規則正しい生活が送れるように、5分前登校の一層の推進を図り、保護者との連携を密にして、協力体制を整えていきたい。	・食事や睡眠時間は保護者との連携が取り、協力いただければ大いに改善が進むと思われる。	
		6 生徒の安全について配慮した指導を行っていますか。	⑨ 交通事故等の未然防止について90%以上の生徒が意識を持っている。	・日頃の交通安全指導や交通安全教室の充実を図り、生徒の交通安全に関する意識を高める。 ・交通マナーに関する問題提起を生徒にも呼びかけ、生徒自身が事故防止を考える機会を増やす。 ・自転車でのヘルメット着用啓発活動を行い、ヘルメット着用率を上げる。	A	A	A	・交通ルールを守り、他人に迷惑をかけない登校ができていると回答した生徒・保護者が94.8%であった。ただ、交通事故は無くなっていないため、ヘルメットの着用啓発活動を含め、交通ルールの遵守や交通マナーの徹底が図れるように、今後も指導を継続していく。	・交通マナーについては指導の徹底をお願いしたい。
			⑩ 環境面・健康面で生徒の安心安全を確保するために、適切な対応方法を理解している生徒が80%以上である。	・職員に危機管理や感染症対策について周知し、教育環境の整備や保健衛生指導の充実を図る。 ・生徒主体の防災訓練やセミナー等を実施し、生徒の防災や健康管理に対する意識を高める。	B	A	B	・95.2%の生徒が理解できていると答えている。引き続き感染症予防や熱中症予防、災害時のスムーズな避難などについて、研修会や委員会活動などを通して一層の啓発を図りたい。 ・20.5%の生徒が朝の登校前に、食事や睡眠時間をしっかりとれていないと答えているため、保健委員会等を充実させ、健康面での啓発も行っていきたい。	・食事や睡眠時間は保護者との連携が取り、協力いただければ大いに改善が進むと思われる。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 生徒が自己の特性を認識し、それを積極的に生かす指導を行っていますか。	⑪ 進路実現に向けて資格取得や技能習得に積極的に取り組んでいる生徒の割合が90%以上である。	・科を中心として課外・補習等の指導体制を整え、学年団や進路指導部とも連携して上級資格の取得を目指す。 ・進路ニュースや進路の手引を活用し、各学年に応じた進路ガイダンスを実施する。 ・3学年全員の面談を行い、生徒の特性に合った進学や企業選択を支援していく。	B	B	B	・85%の生徒が肯定的に答えたが、目標の90%に達しなかった。今後も資格取得の重要性と必要性、および社会的な役割について説明し、自ら学び、行動する力を身につけさせることが必要である。しかし、学校が推奨する資格と、生徒が希望する職業や地元企業のニーズが一致していないというパターンも考えられる。	・資格取得の意義・必要性・社会的な役割等について理解を深めさせる指導をお願いします。 ・地元の優秀な人材を供給することが貴校の大きな使命かと存じますので、企業との接点をもっと増やして、より具体的に企業で働くことをトレーニングすることを検討ください。	
		8 適切な進路決定を行えるよう、保護者の協力を得ていますか。	⑫ 進路実現について、85%以上の生徒や保護者が進路情報を理解し、関心を持っている。	・進路指導部と学年団の連携を密にし、学年会で、進路指導や情報等を検討し、各担当が保護者面談に活用できるようにする。 ・進路の手引や求人、指定校等の進路情報をネットワークで提供する。	A	A	A	・生徒と保護者の約85%が肯定的に答えた。1年次からの進路ガイダンスや生徒全員参加のインターンシップの実施、さらに、面談をしていることが良い影響となっている。また、ICTを利用した求人票等の進路情報の発信を、今後も継続して行っていく。今後は、進路希望調査を、生徒だけでなく保護者向けにも実施し、面談の議題とした。	⑩について、「ニーズの不一致」が要因と挙げられているので、その不一致が何か、生徒が積極的に取り組めない理由がどこにあるのかを追求できるとよい。目標値が90%であるため肯定的な回答の評価が「B」になるのは仕方ないが、85%でもそれなりの結果である。 ・就職に関しては、本校から就職する優位性（先輩たちが活躍）をもって生徒や保護者に説明していただきたい。
	9 進路実現を積極的に進めることができるよう、校内での組織的な取り組みを行っていますか。	⑬ 進路実現に向け、面接や小論文などに、3学年の80%以上の生徒が主体的に意欲を持って取り組んでいる。	・外部講師による進路ガイダンスや職業講話を実施し、生徒の進路実現の意欲向上を図る。 ・就業体験・先輩からの進路報告会等とおして、職業観の育成や進路実現に向けて努力の重要性と自分自身の課題を自覚させる。 ・3学年においては、長期休業中を利用し、コミュニケーション能力や文書作成能力向上のために、面接練習や小論文対策を実施する。	A	B	B	・3年生の生徒は面接指導や履歴書指導等を行っているため、主体的に意欲を持って取り組んでいた。しかし、1～3年生全体で積極的に取り組んでいると答えた生徒は70%であった。1年生から進路ガイダンスやインターンシップを実施しているが、進路への取組を後回しにしている生徒が一部見受けられるのが事実である。探求学習等で生徒がエージェンシーを発揮できる環境を作る必要がある。	・⑩について、「ニーズの不一致」が要因と挙げられているので、その不一致が何か、生徒が積極的に取り組めない理由がどこにあるのかを追求できるとよい。目標値が90%であるため肯定的な回答の評価が「B」になるのは仕方ないが、85%でもそれなりの結果である。 ・就職に関しては、本校から就職する優位性（先輩たちが活躍）をもって生徒や保護者に説明していただきたい。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に対して、学校教育活動を積極的に発信していますか。	⑭ 本校の教育活動について、保護者の80%以上が関心を持っている。	・学校の教育活動や成果の情報発信を強化するため、Webページの充実を図る。また迅速な更新ができるように、Webページの作成方法や構成を検討する。	A	A	B	・学校行事をはじめ、校外の活動等において情報発信をすることができた。今後も、学校HPを通じて情報発信を行っていききたい。 ・部活動の紹介ページにおいて、一部の部活動の内容更新が遅れている部がある。各部と連携し、迅速に更新ができるよう作業していきたい。	・新たなものも含めて様々な形態の36もの地域連携活動がなされたことは素晴らしい。生徒が活動の中で、どのような資質・能力を伸ばせたのか、確認を引き続き行ってもらいたい。地域連携活動に伴う教員の負担軽減を図れると良い。	
		⑮ PTA総会や学年保護者会等に、積極的に参加している保護者が70%以上である。	・PTA行事への保護者参加について案内や説明を行うとともに、支部組織を活用して、積極的な参加を呼びかける。	B	-	B	・PTA総会出席率48.6%、公開授業出席率55.6%、学年懇談会出席率64.6%であった。総会が出席率が低く、書面評決でも良いという意見が多かった。生徒の様子を見たいという希望はあるようなので、総会の出席率は上がったが、近隣の学校は、ほぼ総会は書面評決になっている。授業見学、懇談会は実施という形で、効率化してよいと考える。	・HPの充実が不可欠であり、他のSNSの活用を図ることが大切である。PTA総会や公開授業の出席率が低く、日程等来ていただくよう検討が必要である。行政や企業との連携については、積極的に実施しており引き続き推進を図っていただきたい。 ・商工会議所としても、今後も生徒に地元や企業の魅力を知ってもらえるよう、学校と連携を図っていききたい。	
	11 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑯ 学校運営協議会を年4回実施し、学校運営の改善を図るとともに、学校の特色化・魅力化の推進につなげる。	・学校説明会や学習成果発表会など、本校の取組を委員の方が観察し、提言できるように協議会の運営を改善する。	A	-	A	前年度より回数を1回増やし、第2回（学校説明会）と第4回（学習成果発表会）では実際の生徒の状況を観察していただくことで、生徒の実態に即した審議ができるようになった。次年度は授業や施設見学なども含め、熟議改善のための会議形式の多様化と、情報収集の在り方についても改善を図り、コミュニティスクールのモデル校としての役割を十分に果たせるようにしたい。	・たくさんよい活動を行っている中で、もっとも外部へ情報を出し、PRしていくとよいのではないかと。また、そのやり方についても今の時代に合った方法を見いだしていってほしいと思います。	
		⑰ 地域の社会人を講師とした講演会を年2回以上実施している。	・講演会を実施する前後に、専門教科において事前指導や事後指導を設け、継続的な授業になるよう実施する。	A	-	A	工業科：10月に1年生を対象に安全体験教室、明和町と地元企業2社による安全教育を実施。課題研究において、「明和町協働まちづくり事業として小学校のロッカー製作」、実習において「地元企業における機械実習」を実施。 商業科：12月に4単選択者を対象に、一般社団法人日本損害保険協会関東支部より講師1名を招き、「個人に関わる損害保険について」ワークショップを実施。	・たくさんよい活動を行っている中で、もっとも外部へ情報を出し、PRしていくとよいのではないかと。また、そのやり方についても今の時代に合った方法を見いだしていってほしいと思います。	
12 地域の学校や企業等と連携していますか。	⑱ 地域住民や地元企業等と連携した活動を年5回以上実施している。	⑰ 地域社会人を講師とした講演会を年2回以上実施している。	・部活動や課題研究等を通じ、地域のイベント等を企画または参加することで交流を図る。また、地元企業とも連携を図り、多くの教育機会を創出する。 ・ボランティア活動へ積極的に参加し、地域との交流を深める。	A	-	A	・生産システム部および商業科：8月に部員の製作物（誰でも弾けるピアノ）をこども園に持参し、情操教育を実施。 ・1年（商業・工業）全員が10月に2日間の短期インターンシップを実施。3年生の課題研究では、商業科の生徒7名が5月から11月まで、6事業所において長期インターンシップを実施した。	・たくさんよい活動を行っている中で、もっとも外部へ情報を出し、PRしていくとよいのではないかと。また、そのやり方についても今の時代に合った方法を見いだしていってほしいと思います。	
		⑲ 地域の幼稚園・小中学校・大学と連携した教育活動を年2回以上実施している。	・各教育機関と連携を図り、専門高校生として必要な幅広い教養を身に付ける。また、本校の良さをPRする。	A	-	A	・商業科の課題研究「百年小麦PR班」と工業科（機械システムコース）の課題研究「カヌーモギー班」が協力を、館林六小・館林九小と総合的な学習の時間における連携プロジェクトを実施した。	・たくさんよい活動を行っている中で、もっとも外部へ情報を出し、PRしていくとよいのではないかと。また、そのやり方についても今の時代に合った方法を見いだしていってほしいと思います。	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ 生徒の80%以上が「ICTを用いた授業が行われている」と回答している。	・授業にICTを活用することで、分かりやすく、生徒が興味関心を持ち主体的に学習活動ができるよう授業改善を図る。	A	A	A	・昨年度の結果より、ICTを活用した指導の割合が増加の傾向にある。ICTを用いた指導の定着はもとより、新しい学びを取り入れた授業も増え、授業内容および生徒の実態に応じた授業への工夫が多様化して対応してきた結果である。	・昨年度の結果より、ICTを活用した指導の割合が増加の傾向にあることの結果はとても素晴らしいと思います。引き続き、生徒の実態に応じたICTの活用やICTを活用した業務改善の推進をお願いいたします。	
		14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑ 働き方改革に伴う、業務の効率化を図り、職員会議及び職員朝会のペーパーレス化を75%以上実施している。	・資料の性質上、ペーパーレス化が可能なものについては積極的に実施していく。また必要に応じてパスワード設定等のセキュリティー対策も講じる。	A	-	A	・職員会議や朝会等、ペーパーレス化を進めてきた。次年度もペーパーレス化を推進していく。ICTを活用することで可能になる業務改善もさらに推進していく。	・昨年度の結果より、ICTを活用した指導の割合が増加の傾向にあることの結果はとても素晴らしいと思います。引き続き、生徒の実態に応じたICTの活用やICTを活用した業務改善の推進をお願いいたします。